

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>入居者、入居者の家族の方も理解しやすいよう簡潔な言葉でユニット独自の理念をつくり、管理者及びスタッフ間でもお互いが把握している。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>日々お互いが協議や試行錯誤しながら実現に取り組んでいる。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>運営理念や基本方針を常に目のつくところへ提示している。また入居者やご家族の方へ説明もしており、地域の人々の代表である町内会長、民生委員へも運営推進鍵などで説明を行っている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>近隣の方への挨拶を励行し、運営推進会議の成果でもあるが、地域の行事にも参加させて頂いている。見学の受け入れも行っている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価のの意義を理解し、評価の結果、改善が必要な項目の指摘を受けた場合は速やかに改善出来るよう取り組んでいる。	
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、参加者が気軽に発言しやすい雰囲気をつくり、地域への参加を目ざし、外部評価やグループホームのサービス内容等も説明している。	
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村へ、グループホームのパンフレット等を配布している。	○ 積極的な関わりが少ない為、行き来する機会を増やしたい。
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、この制度を利用している方はいないが、利用者の中では独居で、的確な判断力が衰え、この制度の利用が必要な状況に陥り当グループホームへ入居された方はいらっしゃる。内容は理解している。	
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待の防止に取り組み、管理者はスタッフの日々の声かけ、ケア等観察し徹底している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は利用者や家族に事業所の理念やサービス内容等を説明し、希望等を必ず聞くようにしている。また退居の際は入居者やご家族に十分な説明を行い、理解・協力を得るよう、退居先の情報提供を行う支援をしている。	
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者、職員は、利用者が意見、不満、苦情を出しやすいよう働きかけ、常に受容・傾聴し極力改善できるよう努力している。	
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の生活状況や健康状態、メンタル面、受診状況等、定期的に報告している。利用者の金銭管理に関しては、出納用紙に記録、領収書も添付し1ヶ月ごと報告し、控えに家族のサイン・捺印を頂いている。	
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内の苦情受付窓口、外部の苦情受付窓口を契約書に明確に掲げ、口頭・文書の両方で説明している。ご家族の来訪時など遠慮なく要望等を出して頂けるよう声かけをしている。	
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	サービス内容や利用者のケアサービスについて申し送りやケアカンファレンスや日々の会話の中で聞き入れ、反映させていく取り組みを行っている。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	日勤帯・夜間帯共に利用者の暮らしを支援できる人員配置、体制をとっている。また、スタッフの急な休み等には必ず代替りのスタッフを確保する体制がとれている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	組織上、訪問看護、訪問入浴介護、訪問看護、特定施設、居宅介護支援事業所など各部門を設けているが、基本的に配置換えはなく、離職もここ2年間以上はない状態である。利用者との馴染みの関係が築けるよう努力している。		
5. 人材の育成と支援			
17 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修受講後は報告書を作成し、申し送りの中でも伝達するようにしている。 スーパーバイザーの確保がある。		
18 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協議会へは加入しているが、同業者との交流はほとんどない。	○	同業者との勉強会へ参加するようしていきたい。
19 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	日々、スタッフの表情や健康面などにも気を配り、悩みやストレス等が解消出来るよう極力耳を傾けている。		
20 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年に2回、健康診断を実施し、健康に明るく元気に働く事ができ、また、1年1年スキルアップしていけるよう配慮し、資格取得のアドバイスも行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から利用に至るまでの対応は、ケアマネジャーや営業部の者が大部分を占めている。	○ 利用前にご本人と家族と面談し、様々なお話を伺うことは行っている時もある。
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネジャーに頼っている事が多い。	○ 例えば、突然当GHへ来訪され相談を受けた場合は、傾聴するようにし次のステップへ進めるよう対応はしている。
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者・家族の意向に可能な限り対応出来るよう、話し合い、検討している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は我々の人生の先輩であり、認知症の○○さんという受け止め方ではなく、○○さんと個人を尊重し共に生活するようにしており、利用者から学ぶ事も多い。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の近況や情報交換を家族と行い、家族の思いも把握した上で、利用者をGH側、家族側と双方から支援している。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居当初は面会もコンスタントにあるが、利用者が生活に慣れるにつれ、面会が減る傾向にあり、家族との外出・外泊は更に減少する為我々が仲介役となり疎遠にならないよう努力している。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人からの電話などは取りつぎ、手紙なども手渡している。また、知人の方の面会もあり、知人の方へ会いに行く場合もご家族に替わり送迎する事もある。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者が孤立しないように配慮しているが、行動障害の著しい利用者の方々がお互い中傷・暴言などで口論となりトラブルになる為、常にスタッフも見守り、仲裁し対応している。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後もご家族からの相談には応じている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	買い物や散歩などの外出、受診、趣味など利用者が希望される生活スタイルに極力応じられるよう充分話を聞き実行している。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴、個性、価値観等を利用者の家族や知人の方から情報収集し把握している。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの一日の生活リズムを把握しケアを行っている。また有する力を発揮できるような支援も行っている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者本人からの聞きとりが困難な場合は、ご家族から要望等を伺い、スタッフ間や看護師にもケアカンファレンスに参加して頂き、ケアプランを作成している。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	実施期間終了後は必ず見直しを行い、期間の途中であっても、利用者の身体状況等に変化があった場合も随時見直しを行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者1人ひとりの、日々の暮らしや身体状況、精神状態等について具体的に詳細に記録している。またケアプランの見直しにも活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制として訪問看護を導入し、健康面をしっかりとサポートしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議をきっかけとして町内会長、民生委員へ協力を呼びかけている。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	事業所以外のケアマネジャー等との連携は少ないのが現状である。	○	受診が困難な方の為に訪問診療等検討したい。
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	協働は充分ではない。	○	ボランティアの導入も前向きに検討したい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科・歯科等の協力病院の確保はあるが、利用者が入居前に受診していた病院へ継続して通院するようにしている。		
41 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医で情報提供書を作成して頂き専門医を受診、相談、診察、継続した受診支援をしている。		
42 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護との連携体制が整えられている。また、ユニット2の管理者が看護師の資格を有しており相談に乗ってもらい、アドバイスも受ける事が出来る。		
43 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した場合は最低週1回は面会へ行き情報交換、状況の把握に努め早期退院が出来るよう担当看護師と話し合い、主治医へもアポイントをとり説明を受けるようにしている。		
44 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、同一敷地内にある有料老人ホームへの入居もご家族と検討している。また終末期の意向もご家族に入居時に確認している。		
45 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	看取りは行っていない旨は、ご家族へはつきりと伝えている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	環境の変化からも相当なダメージがある事を我々職員も理解しており、移行先への情報提供もプライバシーに配慮しながら行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
47 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個別化を常に意識し自尊心を傷付けないようさり気ない対応をしている。プライバシーに配慮し、個人情報の取り扱いも充分注意している。		
48 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	出来るだけ利用者の希望にそえるよう、選択の場面や選ぶ事を待つようなケアをしている。		
49 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおよそその一日の流れはあるが、ご自分の時間を自由に使っている。業務を優先するのではなく、利用者の訴えにその都度耳を傾けている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望むお店に行けるように努めている	服装はその日その日に着用したいものを選択して頂き、理容・美容は本人の望むお店へ行き好みのスタイルにし、おしゃれの支援をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望や好みに応じた食事メニューを考慮したり、苦手なものは代替品を提供している。食べ方の混乱や食べこぼし等へもさり気なくサポートしている。また支度や後片付けにも参加して頂いている。		
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の一人ひとりの嗜好品を把握しており、暮らしの中で取り入れている。		
53	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人の排泄パターンを把握し、その都度誘導や介助を行い、一時的におむつ等を使用しても状況が開放へ向かうと使用を終了している。また羞恥心には充分配慮している。		
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個々の希望を出来るだけ取り入れ、回数や時間帯を選択して頂いている。入浴を拒否する利用者には声かけの工夫やタイミングも図っている。長風呂の方へは声かけ、見守りを励行している。		
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個人の睡眠パターンを把握し、出来るだけ眠剤などに頼らずに不眠の原因などをさぐり安眠への支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時に生活歴、その後もご本人やご家族から体験談などを聞き、個人を尊重したケアを心がけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手元にお金が無いと不安な方にはご家族の了承のもと持参されている。また利用者の力量に応じて支援している。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	家庭菜園を行ったり近隣を散歩したり、近所のスーパーやホームセンターへ買い物に出掛けている。また、地域の行事にも参加させて頂いている。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	近隣は対応している。例えば、ご本人のふるさと訪問等のご家族に頼っている事が多い。全体の行事等では遠方へも外出している。		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書かれている入居者の方や電話をかけて欲しいと希望のある方へその都度支援している。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族・知人（近所の方だった人々も含む）が気軽に訪問出切るよう、我々職員も笑顔でお迎えし、お茶など飲みながら自室やホールを利用して頂き、談笑されている。 家族が宿泊する事も可能である。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の内容やその弊害について全職員が理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	会社側の方針でもある為施錠しているが、外出傾向の強い利用者へは常に付添い外へ出るようにケアしている。	○	1日、数時間でも開放するように少しずつ取組んでいきたい。
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	会話などしながら利用者のそばで記録をしたり、調理をしながら利用者の見守りが出来るようにしている。また夜間も利用者が離床し廊下へ出向かれた時点から見守り、付添いを励行し安全に配慮している。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤や消毒液や薬等は利用者が誤飲しないように手の届かない位置に保管し、刃物は本数を確認し、施錠している。また、ハサミ等を使用出来る方へは見守りで対応している。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故が発生した場合の対処・報告が組織の中で明確にされており、再発防止の話し合いも行っている。またヒヤリハット報告書、事故報告書の様式も整備されている。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応マニュアルが作成されている。また常にスタッフの目のつくところへ掲示している。応急手当の訓練等は研修を受けた者が伝達講習している。		
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な設備の点検と併せて避難・誘導の訓練も実施している。運営推進会議の議題としても取り入れ災害時の避難場所も確認できている。(小学校、児童公園)		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	転倒や誤嚥などの事故も起こり得る事を充分把握し、利用者の家族へ現在の状況と合わせ説明し、家族の意見、意向も伺うようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者1人ひとりの既往歴、現病を把握し、全職員で観察のポイントを理解し、バイタルサインを基本にその他の異変がないかも注意を払っている。必要時はすぐ受診するようにしている。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員間で、利用者の方々の内服薬の内容を確認、理解している。またどのような副作用があるかを必ず確認し、申し送り時に話し合うようにしている。誤薬には細心の注意を払い、内服薬の変更時も必ず情報を共有している。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食物繊維の多いものの提供、水分補給、腹部マッサージ、個人に合わせた軽い運動などを心掛けている。また個人の排泄のリサイクルを把握し容易に薬に頼らないようにしている。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食を楽しむ為には、歯や舌など口腔内の清潔が重要である事を全職員が理解しており、毎食後、一人ひとりに合わせたケアを行っている。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者、一人ひとりの状態を考慮し、1日1日全体のバランスを考え、メニューも工夫している。またカロリー計算も行い、おやつや水分補給などで1日の栄養摂取が概ね1,200~1,400kcalを目安としている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	利用者にはインフルエンザワクチンを受けて頂き、手洗い、うがいを励行している。またノロウイルスの発症が多い時期でも細心の注意を払い、次亜鉛素酸ナトリウム液での消毒も励行している。 マニュアルが整備されている。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	シンク、IH周辺は常に清潔にし、布巾、包丁、まな板は毎回消毒している。冷蔵庫の消毒は1ヶ月に1回は必ず実施し、食品の保持期限冷凍物の確認も行い安全に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関まわりはプランタに草花を植え、玄関などの飾り付けも家庭的な雰囲気づくりに配慮している。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光には考慮し、カーテン、ブラインド等で調整し、室内の明るさも適当である。 季節感を感じることができる飾り付等を行い、過度な装飾は避けすっきりと落ち着いた生活空間を心がけている。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	サンルームの設備や居間や廊下においてもソファや椅子を設置し、居場所を確保している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入居時に家具や寝具や生活用品など、なじみの ものを持ち込んで頂いている。また、ホールだけ でなく、各居室も個人の部屋のような再現が できるような、カレンダーや写真を飾り、植 物置いたりしている。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に 応じてこまめに行っている	各居室、居間などをはじめ窓や戸を開け日 々適度な換気を行っている。冷暖房も適 温を保っている。温・湿度計2ヶ所設置。	○	冬期間、利用者が居室で過ごすには寒 い為安全な暖房・保温を確保したい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を 活かして、安全かつできるだけ自立した 生活を送れるように工夫している	廊下、浴室への手すりの設置や、車椅子 用のシャワーチェアの準備や、便座の 左右には可動式の手すりが設置してあり 安全を考え、自立支援もしている。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混 乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるよ うに工夫している	利用者の混乱を招くような紛らわしい 表示や過度の装飾は避け、浴室前など はのれんをかけたり、各居室へはネー ムプレートを掲げ目印になるよう工夫 している。また環境整美し常に清潔な 状態を保つ様に努めている。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動 できるように活かしている	立地、建築上、畑はないが、プランタ で家庭菜園を行ったり、外気浴が 出来るようすぐに椅子やベンチを 出せるようにし、楽しみや活動に つなげるようにしている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

擬似家族であるが、スタッフ各々が個性を発揮し、入居者に愛情を持って丁寧に接するよう心掛けている。
身体介護もあるが、メンタル面や行動障害の部分への対応も多く、試行錯誤しながら、チームワークを大切にしながら取り組んでいる。